



さいたま市見て歩き
人形と歴史の町・岩槻駅周辺

さいたま市保健福祉局福祉部障害福祉課
社会福祉法人さいたま市社会福祉協議会

目 次

はじめに	3
1. 人形と歴史の町岩槻	4
2. 大宮駅東武野田線と岩槻駅前の様子	5
3. 愛宕神社を参拝	7
4. 岩槻の人形店について	8
5. 岩槻区役所	13
6. 岩槻藩の塾“遷喬館”(せんきょうかん)	13
7. 美しい響きの“時の鐘”	16
8. 岩槻城址公園・黒門・人形塚	16
9. 岩槻城址公園内散策	18
10. 岩槻の祭事と物産	20
終わりに	21
岩槻市民音頭	22

この冊子は視覚障害者のためのタウン誌です。
実際に視覚障害者と共に歩き、アドバイスを頂きながら作成しました。

はじめに

視覚に障害のある方々に、日常生活の場である地域に密着した情報を提供することを目的とした「さいたま市見て歩き」も第3号を発刊する運びとなりました。今号は岩槻駅周辺の歴史ある街並を中心に情報をまとめた冊子となっております。

本冊子の作成にあたりまして、さいたま市視覚障害者福祉協会を始め、点訳ボランティア、朗読ボランティアの皆様のご協力をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

今回の「さいたま市見て歩き」では、歴史と文化の町岩槻、豊かな自然に恵まれた岩槻を紹介しております。岩槻駅周辺から始まり、時の鐘、岩槻城址公園に代表される数多く残る名所を中心に、美味しい食事、御土産などにも触れさせていただいており、楽しめるコースとなっております。

1人でも多くの方にこの素晴らしい自然と伝統の街を感じていただきたいと考えておりますので、岩槻駅周辺へ出掛ける際には是非ご活用ください。

私は市長就任以来、「徹底した現場主義」、「責任と共感」、「公平・公正・開かれた市政」の3つを基本姿勢として市政に全力を傾注してまいりました。

このような中、昨年11月に、「子どもが輝く“絆”で結ばれたまち」の実現を目指し、市政運営の最優先事項として「しあわせ倍増プラン2009」を策定しました。

さいたま市を「日本一ひらかれたまち、日本一身近ではよい行政、日本一しあわせを実感できるまち」に変えていくため、全庁を挙げて取り組んでまいりますので、皆様の御理解とご協力をお願いいたします。

なお、「しあわせ倍増プラン2009」のひとつにも掲げております障害者も健常者も共に地域で暮らしていける、ノーマライゼーション条例の制定に向けて、現在取り組んでおります。

障害をお持ちの方をはじめ、多くの市民の方のご意見をいただきたいと考えておりますので、宜しく願いを致します。

結びに、「さいたま市見て歩き」が、視覚に障害のある皆様の地域への社会参加の促進につながることを祈念し、巻頭の挨拶とさせていただきます。

平成22年3月

さいたま市長 清水勇人

1. 人形と歴史の町岩槻

岩槻は埼玉県の東南部に位置し、南北に細長い形をしており、中央部と北東部は台地になっています。南北を流れる元荒川・綾瀬川の流域は低地で水辺など豊かな自然環境に富んでいます。

自然環境に恵まれた岩槻の地は古くから開けた所で、数多く残る遺跡から発見された出土品などによると、1万年以上前から人間の生活が営まれていたことがわかっています。

代表的な遺跡としては、国史跡真福寺貝塚をはじめとする貝塚があります。江戸時代まで岩槻周辺には古利根川、元荒川などの大河が流れ、また東北地方に通じる主要な街道が通るなど水陸交通の要衝でした。このため、岩槻は軍事上の拠点として、時の有力武将から重視され、城が築かれるに至ったのです。

埼玉県内で幕末まで存続した城は忍城、川越城、そして岩槻城です。築城については諸説がありますが、今から500年前太田道灌によって築城され、江戸時代に日光東照宮が造営され日光社参が始まると、日光御成街道が整備されました。城下町として、また宿場町として岩槻は武蔵の国の東部として大いに栄えたのです。

明治に入ってから廃藩置県に伴い、埼玉県が成立。一時は県庁が岩槻町におかれることとなりましたが、南埼玉郡の郡庁は岩槻町におかれ、移転しないまま、正式に浦和町が県庁所在地となりました。

昭和29年の7月に岩槻市となり、当時約3万5千人だった人口も、都市化の進展により今では11万人を数えています。

岩槻市政50周年の節目の年の平成17年4月1日さいたま市の第10番目の区として「岩槻区」が誕生しました。

この冊子を作るにあたり、歴史と文化の町岩槻、豊かな自然に恵まれた岩槻を紹介し、1人でも多くの方々にその素晴らしさに触れていただきたいとおもいます。

冊子にまとめましたコースは、岩槻駅周辺から始まり、愛宕神社、人形店見学、岩槻区役所、岩槻藩の塾（遷喬館）、時の鐘、岩槻城址公園・黒門・人形塚、公園内散策をめぐり、最後に市民会館いわつきにある食堂（レストラン大手門）にて埼玉県ではB級グルメで1位になった事のある“豆腐ラーメン”の昼食をいただき、コミュニティバスで岩槻駅まで戻るというコースを設定いたしました。

2. 大宮駅東武野田線と岩槻駅前の様子

大宮駅北口寄りのルミネ通路を通過して東武野田線の春日部、七光台、柏、船橋方面行きに乗っていただき、大宮公園駅等の五つの駅を通過して岩槻に着きます。乗車運賃は190円です。

開発途上である岩槻駅のホームは現在東口のみ改札となり、残念ながらエレベーターもエスカレーターも設置されていません。2本のホームを持つ岩槻駅は降りたホームから階段を上がっていただき、右に曲がって通路を渡り、階段を下りて東口となります。

長根 「今、私は大宮駅東武線のホームにおります。このホームは、岩槻・春日部方面に行く電車があります。これから私は岩槻へ行くのですがこのホームは両側に電車が止まるような形になっておりますので早めに出る電車にお乗りになるといいと思います」。

「ちょっと電車の音が入っておりますけれども、これはこれで駅らしくていいのではないのでしょうか。岩槻へ行く場合は、一番前の車両に乗るとよろしいかと思えます」。

小川 「今、岩槻駅を降りて改札のところにいます。駅前はどうなっているのでしょうか」。

小幡 「駅前を降りますと、丁度、東武ですとか国際のバスの降り口がございます。右側のほうにタクシーの乗り場がありまして、建物的には昔の東武ストアーがありますし、目の前にはサティーンですとか、ワッツの建物があります。人形の町である東玉人形の大きな建物のビルがあります」。

小川 「人形の奴はどの辺にあるんですか」。

小幡 「あ、人形のからくり時計ですか？ 駅前を降りますと目の前に丁度、そうですね。鉛筆のような形をした時計、あの形であって真ん中に時計がありますが、そのところに10時ですとか、12時ですとか、3時5時に下から上がってきます。丁度3月に飾ります段雛の人形の形をしております」。

小川 「バスの状況はどうなっているのでしょうか？ ただ普通の東武と東武のバスと、市区内を循環しているバスがあるはずなんです」。

小幡 「そうなんです。岩槻の駅はそうですね。今、目白大学という大学がこちらに来ておりまして、目白大学を經由して越谷の西口のほうです

とか、またここから大宮の駅のほうへ行かれます。又蓮田のほうにも行くバスが出ております。かなりの乗降客があってそのラッシュ時は大変な賑わいだそうです。又駅前のところから、コミュニティバスが出ておまして1時間に1本なのですが、保健センターを経由しての循環バスが右回り、左回りで出ております」。

小川 「岩槻の駅前通りに人形通りがありますけど、その人形屋さんは右ですか、左にありますか」。

小幡 「駅前に降りますと東玉さんが左側に見えてきまして、そこから右側にも東玉さんがいます。そこが人形の町という事で、ずっと真直ぐ色々な地場産業である各お店が軒並みに並んでおります」。

「又3月、5月シーズンになりますと普段は閉まっている場所であっても、お店が開いてという感じで、軒並みの人形の町一色に染まる時期もあります」。

小川 「じゃあ、ひな祭りの3月などはすごい賑わいになるわけですね」。

小幡 「そうですね。ここは駐車も大変厳しい所で、良く旗を振って“駐車場こちらですよ”という感じで、やっておりますね」。

小川 「5月の人形の節句はどうですか」。

小幡 「5月の人形の節句もかなり混んでいるようで、東玉さんでも秀月さんでも、ここから見渡すだけでもかなりの人形のお店が並んでいます」。

点字ブロックに沿って左にまっすぐ行きますとコミュニティバス、朝日、東武、国際等が発着しており、目白大学を経由して浦和美園（みその）行きの他に、越谷、北浦和、大宮、蓮田方面にも行く事も出来ます。また、浦和美園駅から岩槻を経由して蓮田まで地下鉄7号線の延伸も予定されているところで、区民の皆さんは今か今かと待ち望んでいるところです。

道なりに交番がありトイレもあり、20歩ほどで岩槻駅東口コミュニティセンター(愛称ワッツ)に到着します。

1階は各銀行のATMコーナー、岩槻の銘菓店があります。2階にはグルメドールというレストランがあり、岩槻駅市民の窓口やコミュニティセンター、ボランティアルームや会議室もあります。3階には岩槻図書館があり音声リーダー付きパソコンも設置されていますのでインターネットも調べることができます。4、5階は会議室等の多目的ルームになっています。

3. 愛宕神社を参拝

ワッツ前の広場を抜けて道路を左手に進み、1つ目の信号を超えると愛宕神社に到着します。鳥居から約30段の階段を上がると神社のお社があります。お社の後ろに野田線が通っており、ときおりカンカンカンと遮断機の音が聞こえます。

神社は防火の神として崇められ現在でも護符をかまどの上に祀る風習があります。祭神は迦具土命（かぐつちのみこと）様です。

岩槻城大構（おおがまえ）は岩槻城の外郭にあたり、戦国時代末期、敵の攻撃に備えて岩槻城と城下町の周囲に築かれた土塁と堀の総称で、高さ約4メートル、幅約8メートル、全長およそ7キロメートルにわたり築造されたという記録があります。

愛宕神社の社殿は大構の上に建っています。社殿は大正12年の関東大震災で全壊したためその後再建されました。

愛宕神社では7月上旬に境内で朝顔市が開かれます。この朝顔は東京入谷の朝顔市などに出荷されている朝顔と同じです。

小川 「愛宕神社ですよ。だいたい、通りからどのくらいなんですか」。

小幡 「そうですね、通りからと言いましても、小高い木が沢山ありまして、山のような形になっております。これは結局、岩槻城の外壁の一番の砦というか守りの、土手のようなところですから、高くなっています」。

「ここから石段に入りますね」。

小川 「この石段は何段ぐらいあるんですか」。

小幡 「そうですね、かなり30段ありますね」。

小川 「けっこうありますね」。

小幡 「もうお社が上から見えてきます」。

「あっ、電車が聞こえますよね。遮断機の音です」。

「もう少し真っ直ぐ行きましょうか。ここに2段の階段がありましてお社の前に入ります」。

「中に御賽銭を入れるところもありますし」。(ガラガラ)

「このお社はそんなに大きくないですよ。そうですね、30畳という感じで、本当にこぢんまりとしたお社です。ちょうどこのお社の周りを一周できまして、よく小さいお子さんたちもそんなふうにして遊んでいます。下にも遊具もありますので、昔そのまんまの感じですよ」。

「ただここは、一回焼けてもう一回建て直されているという話は聞いております」。

小川 「江戸時代、岩槻藩の頃からここはお参りされていたんですね」。

小幡 「火防の神様ということで、今でもお正月にお札を出して各自お家のお台所のほうに貼って家内安全とかにしているようですよ」。

4. 岩槻の人形店について

愛宕神社の鳥居のすぐ脇に昭和33年創業の鈴木人形店があり、雛人形、五月人形等の日本人形の製造、販売を行っています。

埼玉県指定の伝統工芸モデル工場にて、『最高の技術』を持つ匠集団により、格調高い人形をお客様にお届けしています。社長の鈴木隆氏は、経済産業省認定の伝統工芸士（江戸木目込人形）に認定されています。

年間約4000人が訪れるという人形工房では、「人形の歴史等が掲載され、職人の技を間近で見学でき、質問もできる店」となっています。

人形は丈夫で壊れにくく、また土に比べ精巧に作ることができ量産にも適していたため、以来、岩槻の代表的産業として発達し、現在も岩槻駅周辺や人形町通り、市宿通りなどに人形店が軒を連ねています。

鈴木人形店さんを見学させていただきました。

井野清次さんにお話を伺いました。

藤崎 「鈴木人形さんの工房。2階の職場にお邪魔しております」。

「職場はどのような状況なのか、お話を伺いたと思います」。

井野 「それではこれからちょっと工房内の風景をご説明したいと思います。

この工房は165平米、坪数で言いますと50坪位ですか。そのような広さの中で事務机を向かい合わせに8台位ずつ並べて4列ございます。だいたい30位の机を作業台として作業しております」。

藤崎 「先程から色々カチャカチャと作業の音が聞こえるんですけども、これは右から左とか流れ作業になっているんですか」。

井野 「私どものこの人形の頭、顔ですけれど、頭を作っている工房ではそういうような機械と言うものは全く無い、それが今の産業の中で特長があるのかな。みんな手作業です。これは真心こめてその作業に携わっている人が作り上げると、言うような非常にその人形としての

価値観がある、そういうものだと私達は自負しております」。

藤崎 「これは何ですか」。

井野 「これは人形の頭を挿す、“巻き藁” というんです」。

「これは小麦のわらを束ねて、だいたい50センチ位の大きさに束ね、周りには稲わらで囲ってあります。なぜこれが良いかといいますと、この首ぶし、串を戻すとき勿論縦にまっすぐに挿し、斜めに挿すことも出来ますし、いったん挿しても又、その藁が戻り何度も使える」。

「ところが昨今、こういう稲藁とか小麦の藁が機械化の農業のためにだんだん少なくなってきて、私も発泡スチロールの塊で、試してみたんですよ。いったん穴を開くと、もうその穴は次の穴の時は使いにくいですから、巻き藁というようなものが、非常に貴重です」。

藤崎 「社長ご自身も、何か作業に加わっていらっしゃるんですか」。

社長 「今、ここで眉を書いています」。

藤崎 「集中しないといけませんよね。声をかけてはまずいですか」。

社長 「大丈夫ですよ。少し」。(笑い)

藤崎 「筆で書いていらっしゃるんですよ」。

社長 「はい、細い特殊な筆でなんですけど、私たちの毛なんですよ。この先がその穂先1本の毛で書いてるんですけど、とても繊細な難しい仕事です。何か型があってそこに色を塗っていくんじゃなくて、何も無いんです」。

藤崎 「わー、すごい」。

社長 「自分で位置と形と色を好きな色に自分で工夫して描いているんです」。

藤崎 「眉毛の形とか時代によって変わるんですか」。

社長 「ムーン、それは無いですね。人形の原型によって変わる。多少変わりますけどね」。

井野 「人形の実際の工程のお話しですけど、生地というのがございまして、そこに胡粉(ごふん)とって日本画の画材で使われている、これはハマグリとか、カキですとか、そういう貝の粉、それを“にかわ”という糊で練り合わせた、そういう塗料状になったものを塗りまして、そこに社長が、この顔の部分に眉を引いている」。

「これから先に行きますと、口紅を差すとか、髪を結うとか、そういうような工程になっていきまして、最終的には仕上がり、完成という事になります」。

小幡 「おすべらかしの・・・」。

藤崎 「ああ 本当だ。 ながーい」。

井野 「これは今まで作られた雛人形のお姫様です。そのお顔ですけれど、これは新しい感覚のお人形。時代にあった人形を作ろうと言う思いで、このように目のはっきりした愛らしい、髪の毛も時代を反映してちょっと茶髪なんですよ」。(笑う)

「こういう人形も若いお母さん方は魅力で、そしてお子さんに求められると言う、非常に時代も変わったな、という思いがしております」。

小幡 「お顔も小顔ですね」。

藤崎 「タレントさんとか、こういう顔に作ってほしいとか、依頼もあるんですか」。

井野 「この何年かは、今のキムタクさんのお顔みたいに、ああいう、ちょっとした浅い顔が好まれますね」。

藤崎 「時代の最先端ですね」。

井野 「この人形雛祭りというのを未来永劫伝えていくには、今の私達のそういうような事も考えて作らなくてはいけないのでは」。

藤崎 「今、ここは何をやっているんですか」。

井野 「まつ毛を引いているんですね」。

藤崎 「眉毛よりも細いですよね」。

井野 「毛先で言うと、本当に細い部分ですよ」。

藤崎 「集中力が必要ですね」。

井野 「これは“けやき”と言いまして髪を結う毛と、人で言うと生え際ですか。生え際の所に細い筆で、そこをアクセントをつけるように、やわらかく書き込んで、細かい作業です」。

井野 「今、人形の髪の毛を植えております」。

藤崎 「柔らかいですね。これ、なんで出来ている髪の毛ですか」。

女性1 「これは人絹と言いまして、人工的に作った絹です。人絹でパルプから作ったそうです」。

藤崎 「すごい！ 肌触りが良いですね」。

女性1 「こっちは絹があるんです」。

藤崎 「何か絹のほうが細く感じちゃう」。

女性1 「細いですね～」。

井野 「絹糸と言うのは、番号がありまして、細いのとか太いのとか色々あります。人形に適した物、絹糸はだいたい白ですけど、それを人形用として、黒く染めております」。

藤崎 「ここは何をされているんです」。

女性2 「目を描いています。描き目のお人形の目を描いているところです」。
「1回にただ単にマジックみたいに1回でポンと描くのではなく、細い筆で20本から30本位を片目で、それでただ1色ではなくて墨でその筆の重ね方によって濃淡を付けていきます」。

井野 「人形のお顔には2種類ありまして、先程社長さんが仕事をしたものが目の入った人形の頭を仕上げていました。これは目と言うか眼球を入れなくて、ただ丸く、目の土台がうっすらあるかな、という盛り上がったところに、筆だけで目を描いている。筆だけで目の雰囲気、その描き方によって表情が色々変わります」。

藤崎 「繊細な仕事ですね」。

井野 「ここは口紅を挿しているところ」。

藤崎 「最終のところですね」。

小幡 「口紅の挿し方もやはり細長く挿すのと、上唇を盛り上げて挿すのと、色々童によって違うんですか」。

女性3 「そうです。なるべく可愛く描くために、ちょっと大きくならないように、なるべく小さめに描くように心がけております」。

井野 「ここはお殿様の髪を結っているところでございます」。

藤崎 「結うのも手作業ですか」。

女性4 「毛負（前髪の溝に髪の毛を埋める）をしたあとに、前の前髪を取りまして、糊で貼りまして、あとを両脇と後ろの髪の毛と一緒にまとめて縛ります」。

藤崎 「指でやってるんですか」。

女性4 「そうです。全部手作業です」。

井野 「今、お殿様の髪の毛を結っているんですけども、前の髪、前の部分をまず下にぴっちり貼り合わせまして、それから良く梳かしまして、後ろとか脇とか、髪の毛をひとつに束ねる、その丁度髪の結った中心を“ねじめ”と言うんです」。

藤崎 「これで梳かすんですか。何で出来ているんですか」。

井野 「色々ですけど、ヒグマ。こういうものは、熊の毛のヒグマ。腰のあるものを短くして使っています」。

藤崎 「自然のもの」。

井野 「そうです。自然のものを使っております。竹にひぐまの毛を」。

「昔ながらのものは、我々の作業にはどうしても必要なんですよね」。

藤崎 「ここでは何をされているのですか、しあげは？」。
女性5 「玉飾りと玉ぐしというものとリボンをつけているところです」。
藤崎 「飾りなんかはできているのですか」。
女性5 「専門に作っている方から」。
藤崎 「分業とおっしゃってましたものね」。
井野 「触ってみてください。これが仕上げているところのお姫様」。
女性5 「玉ぐしです。玉飾り」。
女性5 「強めの糊を使って、後頭部に貼り留めています」。
藤崎 「しっかり付いてますけど、とれないように接着剤も特殊ですか？」。
女性5 「リボンのところは、ボンドを使って玉飾りや玉ぐしは、また別の、それぞれの素材にあった接着剤を使ってとれないように」。
藤崎 「髪の毛がすべすべしていて気持ちいい～。長いですね」。

井野 「では、これで一通りご案内したわけですが、素材についてお話しなかったの、これが“石膏”という素材です」。
藤崎 「小麦粉のような感じです。白いんですか」。
井野 「白です。石膏の粉をてんぷらをあげるみたいに、水を加えてドロドロに溶いたものを、樹脂でできたものの中に流し込みます。30分位すると、石膏は固まり、抜き出してこれが生地になるわけです」。
藤崎 「この時点で、つるつるしてらっしゃるんですか、磨いたりするんですか」。
井野 「気泡ですとかがあった場合には、そこをちょっと埋めたりして、磨きをします。きれいになったところに、“胡粉”といって、蛤ですとか牡蠣ですとか、そういう貝の粉を使われている」。
「これは接着剤に使われる“にかわ”です。くじらとか、馬ですとか牛ですとか、大きい動物から抽出」。
「にかわは人形には欠かせない材料でございます」。
藤崎 「化学的なものは、使ってないんですね」。

<人形店の感想>

藤崎 「人形のお顔はとてもすべすべしていて、温かみがある感じで、指先から顔の表情が伝わってきます」。
「髪の毛も、とてもソフトで、優雅な感じでした」。

5. 岩槻区役所

鈴木人形店から丹過通り、大工町を3分ほど歩くと16号沿いにある岩槻区役所に着きます。道路は音声信号付きですので安心して渡れます。

点字ブロックに沿って信号を渡りすぐ右側に1里塚の石碑があります。又、点字ブロックに沿って上りスロープを歩きますと「ここは岩槻区役所正面です」と音声案内があります。入口左側には太田道灌の銅像が、頭には蓑笠をかぶり狩の装束で腰には刀を背中には矢を背負い右手に弓を持った立像があります。

中に入りますとすぐに案内所があり、誘導をしていただけます。

1階ホールでは、ホットとアイスのお水とお茶の無料飲料の用意がなされ、休憩ができます。

岩槻区の人口は平成21年12月現在で11万2780人。男性5万6851人、女性5万5929人世帯数は4万5153世帯です。

区役所の裏に回り、なつかしい旧名の裏小路を通り遷喬館を目指します。遷喬館の向かいには岩槻図書館や岩槻本町公民館があります。

6. 岩槻藩の塾“遷喬館”（せんきょうかん）

ボランティアガイドの猪俣智さんにお話を伺いました

小川 「今、岩槻の区役所から通りを歩いてきまして遷喬館前にいます。それではですね、係の方に話を聞いてみたいと思います。よろしくお願いします」。

猪俣 「おはようございます。ここは、遷喬館と言います。

児玉南柯と言う先生がお建てになった塾ですが、最初は私塾として建てられたものを5年後岩槻藩の塾として変わりまして、侍の子弟です。子供たちを教育する場所となりました」。

「ここから見える屋根が茅葺になっております。200年前に建ったものを一度解体しまして、そのまま、同じ場所に同じ規模で復元したものです。左右の間口が8間あります。奥行きが4間です。メートルで言うと14メートルちょっと、奥行きが7メートル位という事になっています。入口が三つあります」。

「ここは、昭和14年に県の指定となっています」。

「昭和31年頃に一度古い建物を修理したんですが、平成15年から

18年、3年にかけて解体して復元したものです。ここに2間程の木の門が造ってあります」。

「お進みください」。

「今、建物の正面に来ております。ここに見えるのが敷台と言いまして塾の表玄関になります。その右に1間ほどの玄関がございますけど、ここは先生の出入り口になっております。ずっと右端の方に2間ほどの玄関がありますが、そこは生徒の出入口になっております。敷台からは殿様とか偉い人しか入れなかったということになっております」。「先程ご説明しました茅葺ですけども、厚さが約50センチ程あります。下地はちょっと白っぽくなっていますが藁です。その表の方に黒ずんでいますがだいたい5~6年経った茅葺です。この茅は今は材料そのものも少ないですし、茅をふく職人さんが当岩槻にお一人、浦和にお一人、茨城県の方に数人いらっしゃるくらいで、人も材料も少ないという時代になっております」。

「先程、完全復元と言いましたけど、右の方の生徒の出入り口のひさはあとで付けたしたもので過去にはありませんでした」。

「どうぞおあがりください」。

「今、お立ちになっているのは敷台と申しまして、昔の武家屋敷にありました広い玄関の台になっていまして、そこから2段ほど上がりますと受付のような控の部屋になってます。ずっと入りますと、ここが6畳の先生の控室になっております。方向で言いますと東北の方面でしょうか」。

「床の間がございまして、ここに書かれてます絵は、先生の自画像です。その横に押入れがございまして、出たところに廊下がございまして、左の方に先生方のトイレいわゆる便所があります」。

「右のほうに行きますと15畳なんですけど、ここは教室です。15畳の向こうに9畳の教室がございまして、ここに約40人の侍の子弟が勉強しておりました。年齢は6歳から20歳までです」。

「先程申しましたけど、最初は私塾として作った時は町人とか農民の子弟が対象になっておりました。ただ優秀な先生でしたから藩がほっときませんで、藩校となりまして侍の子弟専用の藩校になりまして、その代わりと言っては何ですが、農民とか商人の方々の学校は岩槻区役所の近くに郷学校という同じような学校ができて、そちらにも先生が出向いて教育をしていたと言われております」。

「周りの障子とか窓が開けてありますけれども、こういった寸法は建った頃の寸法で作ってありますし、障子紙も手すきの障子紙でやっております。襖も同じ寸法でしてちょうど鴨居が真中にあるんですが、これは一本鴨居と言いまして、一本の木でできております」。

「奥に行きますと納戸になって、控室と言いますか、生徒が物を置いたり、待ってたりする部屋で6畳ございました。奥に納戸がございます。その頃には机などが置いてあったのではないかと思います」。

「右の端の方から行きますと学生の専用のお手洗いになっております」。

「天井にしましても鴨居にしましても、同じ時代の民間に比べたらちょっとサイズ的には大きめにできていると思います」。

「ここは儒学を専門に行っておりました。普通儒学の横には神様が祭ってありますけど、主に孔子が祭ってございますけど、この場合は他の学校と違いまして天神さんが祭ってございました。そこが他の学校と違うことだそうです」。

「この屋敷は約550平米180坪ちょっとございます。その裏にその頃2000坪の広場がございまして池とか梅林ですとか築山とかがあり、主に100名の子弟が武術を学んでいたと言われております」。

小川 「質問があるんですけど、藩校となつてからはやはり生徒は男子だけですか」。

猪俣 「おっしゃるとおり、男子だけになりました」。

小川 「その前は、女子とか農家だったりが行ったんでしょうか」。

猪俣 「男女で6歳から20歳くらいまで、近郷の村から優秀な子供ですとか、お金持ちの子供たちが、けっこう遠くから来ていたようですよ。概算ですけど、月謝が今のお金にしまして3000円前後だと言われておりますので、貧しいひとにとっては、安くない金額だったと言われております」。

小川 「テレビなんかで藩校と言いますと机が畳に座っておりますけど、どんな感じだったんでしょうか」。

猪俣 「座り机で細長い机だったみたいです。因みに申しますと江戸の一番最盛期には、全国で270ほどの藩校があったみたいです。埼玉ではここだけです。もうひとつ言えるのは、同じ場所で同じ規模で建っているというのも、非常に少ないらしいですね。多少場所がずれたりしてるみたいですけどね」。

遷喬館の休館日は月曜日。開館時間は午前9時から午後4時30分です。

7. 美しい響きの“時の鐘”

遷喬館を出た道路を右にまっすぐ200メートル位進み、T字路を少し左に行くと時の鐘の入口にあたります。「時の鐘」は元々、岩槻城の鐘楼で、岩槻藩の安部氏が武家屋敷と町人町の境の出入り口の一つ、渋江口に設置した鐘楼です。

く岩槻に過ぎたるものが二つある 児玉南柯（なんか）と時の鐘と詠われるほどでした。当時から岩槻のシンボルとして知られ、その鐘の音は九里離れた江戸まで聞こえたということです。享保年間に鐘にひびが入り、音色が悪くなった為、作り直して現在でもなお、朝な夕なの6時に美しい響きで時を告げています。

時の鐘の隣には大きなイチョウの木があります。明治29年に植樹した雄株です。

渋江小路、広小路、諏訪小路を通過して岩槻城址公園へ向かいます。

8. 岩槻城址公園・黒門・人形塚

諏訪小路を運動広場のほうに向かって歩いていきますと岩槻城址公園に出ます。

岩槻城は室町時代の後半に築かれたと言われています。築城者についてはいろいろな説がありますが、16世紀の前半に太田氏が城主となっていたことは確かなようです。

江戸時代になると岩槻城は江戸北方の守りの要として重要視され、幕府要職を務める譜代大名の居城となりました。戦国時代から江戸時代まで続いた岩槻城でしたが、明治維新後の明治6年廃城となりました。

川越城、忍城と共に県内3名城の一つと数えられています。城の建物は各地に移され、土地は払い下げられ、およそ400年の永きにわたって続いた岩槻城は終りの時を迎えたのです。

岩槻城址公園内にある黒門は、門扉の両側に小部屋が付属する長屋門で、かつては岩槻城の城門として威風を誇ったものです。明治維新後に埼玉県庁の正門となり、後に知事公舎の正門となりました。昭和29年、岩槻市に払い下げられ、昭和45年、現在の岩槻城址公園内に移築されました。

黒門の前には人形供養が行われる人形塚があり、毎年11月3日にその人形

塚で人形供養祭が行われます。岩槻人形組合が人形を大切にしている方々の、古くなったり壊れたりして飾らなくなった人形を捨てるにしのびないという気持から、人形を供養し別れを告げるもので、毎年大勢の人が集まります。

人形塚のその奥には岩槻城の裏門がひっそりと置かれています。

黒門から2、30歩も歩くと城址公園の園内に入り、起伏のある坂道を20歩ほどおりますと真っ赤な朱塗りの八ツ橋が見えてきます。

小川 「ここに昔、岩槻城のお城があったわけですね」。

「良く地元の方は太田道灌が建てたと言っていますが、どうなんでしょうか」。

小幡 「16世紀の前半に太田氏が一応城主となってここを守ったと言う事は伺っておりますけれど。戦国時代から江戸時代まで続いた岩槻城ということだそうです」。

小川 「結構広いスペースみたいですね」。

小幡 「そうですね。かなりの広さがありますから1日ゆっくりここだけでも楽しめますし、又桜の季節は桜の山になります」。

小川 「公園の中に降りてきますと池があって橋がありますが、なんと言う橋なんですか」。

小幡 「八ツ橋です。これから皆さんに歩いていただくと思っておりますが、ギザギザの八ツ橋になっております。その周りに蓮池がありまして蓮もたくさん時期には咲いております。そこには子供さんが楽しめるように、池の中にザリガニがかなり住んでおります。季節によっては楽しんでいるようですが。お城の周りのところにも桜の木がかなりありまして、サイクリングロードとしても皆さん、そこでも楽しんでおりますね。かなりの屋台も出ます」。

小幡 「今、長屋門の、その黒門の前に人形塚があります。この間テレビでもやっておりましたが、人形の供養祭があります」。

小幡 「流し雛は下の城址公園の下のところで池がありますので、そこで流し雛が催されます。かなりの方々が11月3日には人形供養をなさったそうです」。

小川 「下のほうに行きますと、あれは白鶴城と読むんですか。何か城跡が石垣みたいな物があるようですけど」。

小幡 「はっかく城ですか。白い鶴と書きまして」。

小川 「はっかく城ですか」。

小幡 「白鶴城。そちらのほうへ行ってみますか」。

小川 「そうですね」。

長根 「岩槻城の中にある橋のところに来ているんですが、何て言う橋」。

若林 「これは普通ハツ橋と呼ばれていますけど」。

長根 「ハツ橋ね。今、私この橋の入り口ですけど、今、ここに丸い物がある。今、これを触っているが、これは」。

若林 「擬宝珠と呼ばれる物だと思います」。

長根 「このハツ橋と言うのは、どうしてハツ橋と言う名前がついたの？」。

若林 「この曲がり曲がって造られていますので、その角がもしかしたら八つあるのかもしれませんが」。

長根 「かなり古いのでしょうかね」。

若林 「もう、40年や50年は経つんじゃないでしょうかね」。

長根 「では、ちょっと橋の上を少し歩いてみます」。

「この橋、そのものはいくらか真直ぐ行って、曲がり、真直ぐの橋では無いんですね。ギザギザのある橋なんですね」。

9. 岩槻城址公園内散策

岩槻城が築かれた場所は現在の市街地東側。元荒川に突き出した台地に本丸、二の丸、三の丸などの名残を残し、園内にある池にかかっているハツ橋は、公園の象徴であり、ギザギザの形をした朱塗りの橋です。池や小川はメダカやザリガニの宝庫です。

広場には、子供用の遊具や広い芝生、童人形が時を告げるからくり時計と東武鉄道の特急車デラックスロマンスカーが保存されています。

自然林に囲まれた起伏の多い公園で、岩槻城址の土塁が今も残っています。

約600本の桜が咲く県内有数の桜の名所としても名高く、通称（おはやし公園）と呼ばれています。4月上旬には桜祭りが開催され、屋台なども出店され植木市、和太鼓の演奏、野点が行われ、たくさんの人々でにぎわいを見せます。

公園の横には元荒川の土手に沿って桜並木のサイクリングロードがあります。春には満開の桜がトンネルを作り出し幻想的な雰囲気になります。

又、毎年4月29日には公園の菖蒲池で岩槻流し雛が行われます。子供達の健やかな成長を願って、災いやけがれ病苦などをさんだわらに載せた紙人形

に託し、川や海に流して払い清めたと、言い伝えられている春の伝統行事で、現在のひな祭りの起源とも言われています。

岩槻城址公園をめぐり、最後に市民会館いわつきにある食堂（レストラン大手門）にて、埼玉県では B 級グルメで 1 位になった事のある“豆腐ラーメン”の昼食をいただきます。

- 小川 「今、食べた豆腐ラーメンなんですが、おいしいですねー」。
「何かこれは埼玉県のグルメ大会で優勝したラーメンだそうですね」。
- 小幡 「お豆腐もいっぱい入っていましたし」。
- 小川 「具だくさんでコクがあってね、すごくおいしいですね」。
- 小幡 「すごい人気でしたね。超いっぱい」。
- 小川 「やっぱりおいしい所ってのは、人が寄ってくるから活気があっていいですね」。
- 小幡 「ちょっとごま油の香りもしましたし、ワカメもひき肉も入っていました。お値段は 500 円でしたね」。
- 小川 「是非、岩槻にきたら食べてもらいたい一品ですね」。
- 小幡 「体が温まります」。
- 小川 「そうですね」。

市民会館前の道から、岩槻駅行きのコミュニティバスは毎時 59 分発で、所要時間は約 10 分、運賃は岩槻駅は 170 円です。又、東岩槻・慈恩寺観音方面は、毎時 56 分発に出ています。乗降場所により運賃が変わります。

コミュニティバスは、保健センターから岩槻駅、区役所、城址公園、東岩槻駅、そして慈恩寺観音の区間を北回り、南回りで 7 時 30 分から 19 時 30 分まで 1 時間おきに走っています。

10. 岩槻の祭事と物産

国定指定重要無形文化財として「古式土俵入り」が秋の大祭として、笹久保（八幡大神社、9月上旬）釣上（神明社、10月上旬）の地で行われています。

子供たちの健やかな成長と住民の安泰、五穀豊穡を願い小学生男子の豆力士による古式に則した土俵入りを奉納する行事で、赤い襦袢を羽織り、化粧回しには、苗字と子供がたくましく成長するように、願いを込めた縁起の良い絵を、色鮮やかに刺繍であしらっています。その化粧回しを締めた子供力士が氏子や行司と参道を歩き神殿にお参りしてから、神主のお祓いを受けます。数少ない民俗行事として、国指定の重要無形文化財となっています。

又、今年も8月の第3日曜日には“人形の町 岩槻祭り”が開催され、人形仮装パレード、区役所内でのジャンボひな段飾りでは一般の方からの応募による人間段飾りなど、楽しい催しが盛りだくさんの一大イベントになります。

又、11月第2日曜日には“岩槻区民やまぶき祭り”〈元気満載！わがまち岩槻区民フェア〉が行われ、祭りには5万6千人以上の方々が訪れ、100店舗以上の参加団体で大変な賑わいとなりました。

おみやげとしては、時の鐘最中、いわつきそだちのまんじゅう、雛サブレなど色々ありますが、中でもお酒では毎年全国新酒鑑評会でも金賞受賞、ヨーロッパ・モンドセレクションでも受賞した鈴木酒造さんでは、資料館で現代の酒造りがわかるビデオコーナーや試飲コーナーをはじめ、お酒（大手門・万両）の販売もしています。

野菜はほうれん草・小松菜・山東菜・枝豆・ねぎ・トマトと、ほとんどの野菜が収穫できますが、特に有名なのはお正月に使うクワイです。河川に育まれた肥沃な農地を好むクワイは、大きく長い芽を付けた姿から、おめでたい野菜として、慶びの食卓を飾ります。

果物も少量ですが、イチゴ・梨・ブドウが作られています。

終わりに

そのほか、岩槻駅から遠くなりますが、岩槻城主である太田道灌慰霊の禅寺でもある芳林寺、児玉南柯氏のゆかりである浄安寺や、岩槻城の鎮守として歴代城主から崇敬を集めた久伊豆神社や、岩槻大師（北向き不動）慈恩寺観音（西遊記の三蔵法師のゆかりが深い寺、坂東 33 観音の 12 番札所）、玄奘塔（三蔵法師のモデルとなった玄奘三蔵の遺骨の一部が納められている塔）、元荒川筋にある第六天神社（火災・災難を始め、家内安全・五穀豊穰をかなえる靈験あらたかな社で、天狗の絵馬）など、歴史ある神社や遺跡が数多くあります。

最近では元荒川にも白鳥が飛来して、鯉も泳いでいます。豊かな自然に恵まれ、埼玉自然百選にも選ばれており、この素晴らしい自然と伝統の街を感じていただけたら幸いに思います。

最後になりましたが、お忙しい中での貴重な時間を取材のためにご協力頂きました皆さまに心より御礼申し上げます。

次の皆様方にご協力頂きました。

鈴木人形店様一同

遷喬館でのボランティアガイド様

本当にありがとうございました。

※なお、鈴木人形さんの詳しい取材内容約 40 分をお聞きになりたい方は
さいたま市視覚障害者福祉協会 事務局長 藤崎明美までご連絡下さい。

※テープ版ではトランペットとヴァイオリンのための協奏曲変ロ長調—
第 3 楽章（ヴィヴァルディ作曲）と、学生王子のセレナード（ロンバー
グ作曲）が挿入されております。
また、岩槻駅前のからくり時計は「時の舞」という約 2 分 30 秒の長い曲
です。作者は不明です。

岩槻市民音頭

作詞 木村妙子 補作詞 石本美由紀
作曲 船村徹
歌 大川栄策・わかばちどり

1. 春の岩槻 3月びなの
白いお顔が 愛らしい
5月 男の 武者人形を
咲いた山吹 見て惚れる
ヨイヨイ 踊りにや 唄がつく
ヨイヨイ 唄には 三味（しゃみ）がつく
ツキツキ 岩槻 城下町

2. 夏の岩槻 人形まつり
踊るあの娘（こ）は 恋人形
大手門から ハッ橋あたり
咲くはデイトの 若い花
ヨイヨイ 踊りにや 唄がつく
ヨイヨイ 唄には 三味（しゃみ）がつく
ツキツキ 岩槻 城下町

3. 秋の岩槻 元荒川の
風にしみいる 時の鐘
みんな供養の 両手をあわす
紅葉いろどる 人形塚
ヨイヨイ 踊りにや 唄がつく
ヨイヨイ 唄には 三味（しゃみ）がつく
ツキツキ 岩槻 城下町

4. 冬の岩槻 道灌さまの
昔ばなしに 夜（よ）が更ける
春を待つ間の 岩槻ぐらし
人形づくりに 精を出す
ヨイヨイ 踊りにや 唄がつく
ヨイヨイ 唄には 三味（しゃみ）がつく
ツキツキ 岩槻 城下町

さいたま市見て歩き
人形と歴史の町・岩槻駅周辺

発行 平成22年3月
制作 さいたま市保健福祉局福祉部障害福祉課
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6-4-4
電話 048-829-1308

社会福祉法人さいたま市社会福祉協議会
〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-22
電話 048-835-3111

編集 さいたま市視覚障害者福祉協会

協力 岩槻点訳奉仕「なんてんの会」
朗読ボランティア「岩槻けやきの会」
点訳グループ「大砂土虹の会」